

課題改善カリキュラム

28年度 学力調査に基づく課題と授業改善策

国語科

大泉東小学校

国語科	調査から分析される課題	課題を解決するための授業改善策
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・書きたいことが正しく読み手に伝わるように書く力が足りない児童が多かった。 ・説明文から筆者の考えを理解・解釈して目的に応じてまとめた文章を考える力に欠ける児童が多い傾向が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み手の立場から文章を客観的に評価するために、自己評価に加えて相互評価を取り入れていく。 ・文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成や叙述の仕方などについて、線を引くなど全員で確認しながら読み取っていく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国の平均値を上回る結果を示していたが、国語の読む領域では、東京都の平均値と比べて低かった。 ・ほとんどの問題を正答する児童が多くいる一方、2～3問しか正答できない児童も数名いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述に即して文章を読みとる時間を授業の中で増やしたり、聞かれている文に線を引いたり、基本的なことが定着できるようにする。 ・授業の初めには、漢字や言語事項など繰り返し学習できる個別指導の時間をつくったり、放課後のチャレンジタイムなどを活用したりして学力の底上げをしていく。

理科、社会科

5年	調査から分析される課題	課題を解決するための授業改善策
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・完全変態で育つ昆虫（知識・理解 1-2）電気を通すもの、通さないもの（知識・理4-1）の理解が十分ではなかった。 ・気温の測り方（観察実験の技能 6-1）星座早見の使い方（観察実験の技能 7-1）の理解に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両方とも、多くの正答を選ぶ問題である。学習した内容を、身近な例、生活と関わらせ一般化を図ることで、理解を深めていく。 ・具体的な操作を伴う学習については、一度で終わりにするのではなく、適宜繰り返し指導し技能を高める。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・人々を火災から守るための消防士の働きを捉えることができていない。〔社会的な思考・判断・表現〕 ・道具のうつりかわりと、それに伴ったくらしの変化の様子の特徴を捉えることができていない。〔社会的な思考・判断・表現〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の消火以外の活動を調べる際、様々な仕事がどのような役割を果たしているかを考えさせる時間を確保する。 ・資料からどのようなことが分かるかを自分で考える力を伸ばすために、授業では資料をもとに考えを交流する時間を多く確保する。

課題改善カリキュラム

28年度 算数科 東京ベーシックドリル、学力調査に基づく課題と授業改善策

大泉東小学校

	調査から分析される課題	課題を解決するための授業改善策
1年		
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・「繰り下がりのあるひき算」の計算で正答率が7割と他に比べ低い。 ・「ひき算の文章題」は正答率が8割。文章題からひき算の式を立式できない児童が2割いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10に対する補数をしっかり捉えさせ、1年生で学習した繰り下がりの計算に慣れさせていく。宿題、チャレンジタイム等で繰り返し練習していく。 ・文章をよく読ませる。どういうときがひき算なのかをつかませるとともに、聞かれている言葉に線を引き、大事なところに注目する習慣をつける。文章題にもたくさん取り組み、慣れさせていく。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・「量の単位」の正答率が2割と、他の領域に比べてとても低い。ものの長さや水のかさについては単位の換算をおさえる必要がある。 ・「表やグラフ」についても4割の正答率で低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数指導などで授業方法を工夫し児童の学習意欲を高めていく。 ・算数の学習の時間以外にも、日常的に実体験として「長さ」や「水のかさ」について触れる機会を増やし、定期的に宿題として東京ベーシックドリルを取り組ませる。 ・「表やグラフ」では、印を付けながら数を数えるような算数的な活動を、チャレンジタイムで行う。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・「時こくや時間」の正答率が3割と一番低い。また、「式による表現」の正答率も4割と低い。 ・「表や棒グラフ」も正答率が低く、解答の様子から、ていねいに作業をすることを苦手とする児童が多くいることが見取れた。 ・「分数のたし算」は正答率が9割、「整数のわり算」は8割であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「時こくや時間」は児童のつまずきをより細かく把握していく必要がある。東京ベーシックドリルの練習シートを活用し、つまずきの把握を進めていく。 ・正答率の低い単元は、東京ベーシックドリルの練習シートを家庭学習でも取り組ませ、学習内容の定着を図る。 ・チャレンジタイムを活用し、反復的な練習や既習学習のふり返り等、個別指導を中心に行う。

<p>5年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルにおける正答率が低い学習内容として、「小数のわり算」「面積」「立方体と直方体」「位置の表し方」があげられる。 ・『児童・生徒の学力向上をはかるための調査』正答率の低い問題として、「四角形の弁別」や「比例の活用」があげられる。また、問題を通して問われているものとして、比較関連付けて読み取る力、数学的な考え方、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力に課題があることがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数指導などで授業方法を工夫し児童の学習意欲を高めていく。 ・教科書の内容に加え、問題の題意を読み込む必要のある発展的な問題に取り組むコースを少人数指導において設定する。 ・授業の中で、文章題の数値や聞かれていることにアンダーラインを引く習慣をつけるなど、学校で統一した指導を展開していく。 ・チャレンジタイムを活用し、反復的な練習や既習の学習内容を振り返る指導を展開する。
<p>6年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査や東京ベーシックドリルをみると、「単位量あたりの大きさを求める問題」の正答率が4割と低かった。また、分数の割り算やかけ算も正答率が4割と低い。 ・知識はあるが、活用することが苦手な児童が多い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数指導などで授業方法を工夫し子供の学習意欲を高めていく。 ・単位量あたりの大きさなどを求める際に、数直線を活用して、数の関係を明確にし、視覚的に捉えやすくしていく。 ・授業の中で反復練習する時間をとったり、東京ベーシックドリルやチャレンジタイムなどを活用したりして、基礎的・基本的な学力の定着を図る。